



妊娠中の歯科治療

赤ちゃんのための お母さんの口腔ケア

お口の状態については、母子手帳「妊娠中と産後の歯の状態」をご覧ください

妊娠中の

歯科治療と口腔ケア

妊娠中は、時期により使用できる薬剤や処置に制限があります。妊娠初期は、虫歯による痛みなどの急性症状に対する応急処置にとどめ、安定期に処置を受けていただくと母体やおなかのお子様に対する負担が少なくて済みます。虫歯がなくても、お口の衛生状態を保つよう、歯科医院での口腔ケアが大切です。

妊娠中の歯周病は、早産・低体重児出産の リスクを高めるといわれています！

妊娠中は、つわり等により歯みがきが上手く出来ないことも多く、それに加えてホルモンバランスの変化等により、歯肉に炎症が起きやすい時期でもあります。

重症化すると歯周炎に進行し歯を失うだけでなく、**さまざまな影響を体にも与えることがあります。**歯周病の影響により、早産・低出生体重児などを含む妊娠出産合併症の発現率を高めるリスク因子であると報告もあります。**歯周病の早期治療と継続的な口腔ケアが大切です。**

妊娠中の歯科治療について

妊娠中の歯科治療は、**時期により使用できる薬剤が変わります。**

妊娠初期は、虫歯による痛みなどの急性症状に対する応急処置にとどめ、安定期に治療を受けることをおすすめします。緊急の場合や何か困ったこと、不安なことがある場合は、かかりつけ歯科医にご相談ください。

① レントゲンについて

鉛で出来ている防護エプロンをすれば問題ありません。

② 麻酔について

通常使用される麻酔は無痛分娩にも使用される安全なものです。

③ 飲み薬について

時期と状態により使用できないものもあります。産科担当医と連携を取り安全に使用していきます。



歯周病とからだの病気

早期の治療と
予防が大切です！

全身のさまざまなところに影響を及ぼします

歯周病は歯を失う大きな原因。歯は、食べ物がはじめて出会う「消化器」であるだけに、歯周病で歯を失うと、からだ全体に大きな影響が及びます。さらに、歯周病が全身のさまざまな病気に関わっていることがわかってきています。



歯周病

歯垢(プラーク)の中の歯周病菌が歯ぐき(歯肉)に炎症をおこしたり、歯根膜や歯槽骨を溶かしてしまう病気。歯垢は歯の表面につく白いネバネバした物質で、この中に細菌がすみついている。手抜き歯みがきや不規則な食生活などが歯垢の増える原因。

認知症

物忘れが病的になった状態。何らかの原因で脳が萎縮するアルツハイマー型と、脳卒中の後遺症としておこる脳血管性がある。

動脈硬化

高血圧や脂質異常が進んで、血管が厚く硬くなった状態。血液がスムーズに流れない虚血性の心臓病や脳卒中の原因になる。

がん

歯周病菌によって炎症がおこり、それが続くことで正常細胞に異常をきたし、発がんに結びつくという説も出てきている。

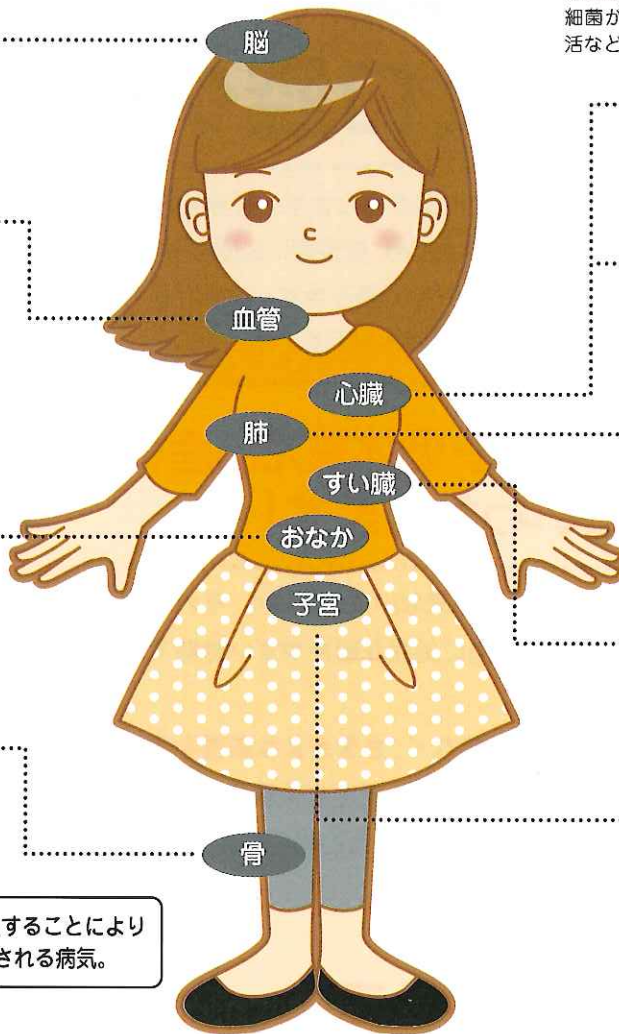
肥満

肥満はさまざまな生活習慣病の温床。最近、おなかに脂肪がつく内臓脂肪型肥満がメタボリックシンドロームの大きな原因になるため、とくに問題になっている。

骨粗しょう症

女性に多く、骨密度が低くなり、骨がすかすかにもろくなる病気。骨折しやすく、高齢者の寝たきりの大きな原因。

病名の文字が青のものは歯周病で歯を喪失することにより影響される病気。その他は、歯周病に影響される病気。



狭心症・心筋梗塞

心臓の筋肉に栄養を送る冠動脈が狭くなったり、詰まることでおこる心臓病。動脈硬化が進行しておこる。

心内膜炎

心臓の弁に歯周病菌が感染しておこることがある。心臓弁膜症など、基礎的な病気がある人は要注意。

肺炎

歯周病菌など、口の中の細菌が気管に入り込み、肺炎にかかることも。高齢者・寝たきりの人や、脳卒中の後遺症などで飲み込む力が低下しているとおこりやすくなる。

糖尿病

血糖値が高い状態が続いておこる。ひどくなると、さまざまな合併症をもたらし、歯周病もその一つといわれる。

胎児の低体重・早産

妊娠中はつわりなどで、口の中のケアがむずかしくなりがち。歯周病が妊娠・出産に影響を及ぼすというデータも。

出産後の口腔ケア

家族全員で口腔ケアを！

生まれたばかりの赤ちゃんの口の中に、ミュータンス菌(虫歯菌)はありません。離乳食などをあげる時などに、家族の方が噛み砕いて食べさせたり、スプーンを共有したりすることで、唾液などから感染します。

赤ちゃんへの虫歯菌の感染を完全に無くすことは不可能です。乳幼児は、手づかみで食べる時期や、人に食べさせる行為をしたりする時期があることも、理解しておいてください。感染を恐れ過ぎることは、赤ちゃんの健康な体づくりと健全な発育に悪影響を与えることもあります。まずは、育児に関わる家族全員のお口の中を良好な状態に保ち、よい環境を受け渡すことが大切です。

生後6ヶ月過ぎたら。

生後6ヶ月を過ぎると、下の前歯から歯が生え始めます。歯が歯肉からみえてきたら、直ぐに歯みがきが必要となります。初めは、歯ブラシでなくガーゼなどで優しくなぞるだけで良いですが、徐々に歯ブラシにしていきましょう。このころから歯みがきの生活習慣化が始まります。歯が生えるという事は、口の機能が授乳から咀嚼に変化し始めているという事です。また、その後の機能習得、悪習癖の習慣化や歯並び等、その時期に合わせた管理法についても、かかりつけ歯科医にご相談ください。

横浜市歯科医師会 <http://www.yokoshi.net/>